# 令和４年度　第４２回卒業証書授与式　式辞

季節を先取りするようなあたたかい春風に誘われて、校庭の桜のつぼみもほころび始めました。

卒業するみなさん、中学校卒業おめでとうございます。またご参列された保護者のみなさま、お子さまのご卒業おめでとうございます。心からのお祝いを申し上げます。

加えて３年ぶりにお招きをすることができましたご来賓のみなさま、本日はご多用のところ卒業生のためにお祝いにお越しいただきまして、ありがとうございます。高いところからではございますが、御礼を申し上げます。

さきほど本年度卒業生一人ひとりに中学校教育課程を修了したことの証となる卒業証書を授与いたしました。卒業証書を受け取るみなさんの顔には、義務教育９年間の学びを得て、立派に成長した自信と誇りが感じられました。本年度の深谷中学校卒業生は、１２９人です。開校４２年で深谷中学校の卒業生は、合計７，６６１人となりました。

卒業生のみなさんは、小学校１年から始まった義務教育の全ての教育課程をすませて、今日という日を迎えています。９年前のことを覚えているでしょうか？初めての小学校、何もかもが新しく、先生や友だちと始めた学校生活。６年間の小学校生活では、集団の中での生活の仕方を中心に、勉強して、友だちとの交流を深めました。

しかしみなさんが小学校を卒業する直前に、新型コロナが流行し始めて、小学校の最後の時間をゆっくり過ごすことも出来ずに、あわただしく小学校を卒業しましたね。そして始まるはずだった中学校生活も、令和２年４月の入学式が終わった直後に２か月間の一斉休校という、スタートを余儀なくされました。中学校に抱いていたさまざまな夢や希望を実現しようとしていた矢先の出来事でした。きっと、戸惑いや不安がつのった日々だったかと思います。

しかし６月に学校が再開してからは、それまでの戸惑いや不安を掻き消すかのように学校生活を元気に過ごしていたことが印象に残っています。小学校時代からの友だちに加え、さらに新しい友だちにも出会い、学習では、教科ごとに専門の先生が担当して学びも進化するという経験も重ねました。

『心身を鍛え、自ら思いをもって、生き抜く！』という深谷中学校の目標、そして『自立貢献』『リスペクト』という学年目標の実現に向け、日々の生活をまじめに送る姿は、本当に輝かしいものでした。みなさんが中学校で友だちと一緒に過ごした時間の中で、感じたこと、考えたこと、手に入れたものは、たくさん、たくさんあったことでしょう。ただ、新型コロナの影響でこの３年間にはさまざまな制限があり中学校生活での貴重な経験を思う存分にさせてあげられなかった事は少し残念に感じていますが
修学旅行はじめほとんどの学校行事も再開することができたのは喜ばしいことでした。
みなさん一人ひとりは確実に成長し、開校４２周年を迎えた深谷中学校の歴史に確かな足跡を残しました。世界中が新型コロナに翻弄され始めてから３年が経過しています。まだしばらく、我々人類がこの未曽有の事態と向き合う日々が続きそうです。つい３年ほど前までは、世の中はどんどん発展して豊かになっていくものだ、との思いが強かったものです。われわれが培ってきたその思いや価値観を、まさに新型コロナがひっくり返してしまいました。
しかし、そのような状況だからと言って何もネガティブになることはありません。

こういう時こそ、何事も前向きに考えて知恵を出し合って行動することが大切だということを、みなさんと一緒にわれわれ大人も学びました。物に満たされていた賑やかな時代から少し静寂の時代へと移り変わってきている、と捉えることも出来ます。
『ピンチはチャンス！』
物事の見方を変えれば、今回のこのコロナ禍という出来事は、新しい時代への変革を予期しているのかも知れません。この経験は必ずや、みなさんのこれからの長い人生の中での大きな糧となることでしょう。そして、みなさんの人間としての幅を大きく広げてくれることでしょう。
中学校を卒業して、それぞれの道を歩き始めることになりますが、今までと同じように、周囲の人と気持を一つにして、この困難を乗り越えていきましょう。
卒業にあたり、もう一つお話しをします。私の大好きな言葉です。それは、『過去と他人は変えられない、未来と自分は変えられる』です。生まれてから今日までみなさんは、15年間という年月を過ごしてさまざまな人と関わってきました。そしてこれからも、人との関わりは続いていきます。その日々には、自分の思うようになったこともあれば、思うようにいかなかった場面もあったことでしょう。
どちらかと言うと、上手くいかなかったことの方が多いのではないでしょうか？だから、そういう負の記憶は思い出したくない、それを消したいと思ったこともあるでしょう。
しかし、過去の事実を変えることは絶対にできません。ただ一つできることは『過去をどう捉えるか？ 』です。 過去の捉え方一つでみなさんのこれからの行動は変わっていくでしょう。 人 は相手に対して変わるためのキッカケを作ってあげたり、背中を押してあげたりすることはできますが、 最終的に実行に移すのは自分次第です。 自分がどれだけ努力して伝えても、それを、相手がどう思うのか？ どう判断するのか？どう行動していくのか？となるので残念ながら、他人を変えることはできません。
しかし、自分が変わるのは、全て自分自身の問題なので意識的に変えていけば、自分は自分で変えることができます。未来も同様に自分自身の努力次第で変えることができます。みなさんは今、中学校を卒業して次の学校に進学しようとしています。環境が変わります。環境が変わることが自分のこれからを見直すチャンスにもなります。これからもさまざまな経験を積んでいく中で、後悔することも時々あるかと思いますが、少しでも「もう後悔しないように前へ進もう」 と心に決めて毎日を前向きに過ごしていってほしいと願っています。
保護者のみなさまへ。
改めましてお子さまの中学校卒業、おめでとうございます。在学中、深谷中学校の教育活動にご理解ご協力を賜りましたことに教職員を代表して心から感謝申し上げます。
お子さまは、さまざまな経験を積み重ね、そして困難を乗り越えて立派に成長されています。
お子さまが小学校卒業から中学校入学そして在学期間に、新型コロナの感染拡大という局面がありました。保護者のみなさまも、小学校の卒業式と中学校の入学式に出席できない等の苦悩もあったことと案じていました。しかし今日、こうして義務教育修了の晴れの日に、保護者のみなさまのご参列のもとに、盛大に卒業証書授与式を挙行できて本当に良かったとうれしく感じております。
いつくしみ育まれたお子さまは、たくさんの人々の愛情を受けて、そして見守られて義務教育を修了し新たなステージに立ちます。お子さまの人生はこれからが本番です。お子さま、ご家族のみなさまの益々のご健康とご健勝を本日の佳き日に合わせ、お祈りいたします。

3年ぶりにお招きできたご来賓のみなさま、PTAの役員や委員のみなさま方には、新型コロナでいろいろと制限があるにもかかわらず、生徒の為にさまざまにご助力いただきました。
おかげさまで、本年度の129人の卒業生をここに、誇りをもって送り出すことができます。
本当にありがとうございました。

卒業していくみなさん、今日から深谷中学校はみなさんの母校になります。
みなさん一人ひとりの輝く未来に向かって、ここ深谷中学校で得られた経験を心の糧にして、
胸を張って誇り高く、羽ばたいて行くことを期待しています。
みなさんのこれからの人生がたくさんの幸せにあふれることを祈りながら、私の式辞の結びの言葉です。

卒業おめでとうございます。
　　そして、母校深谷中学校から、行ってらっしゃい！

令和５年３月８日　横浜市立深谷中学校長　榎田卓央